

6 専門的な（難しい）評価

「水辺の親しみやすさ」を調査するにあたっては、人が利用する視点だけでなく、そこを生息場所としている生きものや、水質の視点からの考え方も大切です。興味がある場合は、次の視点での評価にもチャレンジしてみてください。

6.1. 水の生きものの視点

（1）魚類での評価

水生生物がその水辺にすみやすいかどうかは、水質や場所の状況（水の深さや速さ、底が泥か砂か、卵を産むところがあるか）などに影響を受けます。生息している魚の種類を調べることで、その場所が魚にとって良い環境かがわかります。

魚類での評価は、その川で「外来種のみが確認」された場合はI、「在来種が確認（指標種以外の種類）」がII、「指標種が確認」がIIIとなります。

指標種は、その川が良い水質の時に生息できる種類です。川の広さや海に近いかによってすめる種類が変わるため、指標種は川ごとに設定しています。（具体的な種名は次ページ「表 各河川の指標種」を見てください）

一般の方が川に入って魚を調査することは難しいため、市が調査している結果を参考にしてください。生きものの調査結果は以下のホームページで公開しています。

表 魚類での評価

視点	評価の基準	項目の評価※1
生きものの生息・生育状況（魚類）	外来種※2のみを確認	I：該当河川として良い環境ではない
	魚類の在来種※3を確認（指標種を除く）	II：該当河川として普通の環境である
	魚類の指標種を確認	III：該当河川として良い環境である

※1：この指標は評価対象の川の環境が、その川の理想の姿と比較して現在は良いか悪いかで評価します。このため、同じ種類の魚が生息していても、川によって評価が変わります。

※2：外来種とは、本来その生きものが生息していない地域に人によって持ち込まれた種です。

※3：在来種とは、もともと川崎市の川に住んでいる種類です。

（もっと詳しく：川崎市ホームページ：外来生物について）

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-6-8-0-0-0-0-0-0-0.html>



表 各河川の指標種及び在来種

河川の分類	河川名	指標種名	在来種名 ^{※1}
①：人工的な川 基本的に3面張りの典型的な都市河川であり、環境の変化に乏しい (在来種の出現数1~2種)	片平川	ドジョウ、メダカ類	ドジョウ、メダカ類
	真福寺川	ドジョウ、メダカ類	ドジョウ、メダカ類
	有馬川	ドジョウ、メダカ類 ^{※2}	スミウキゴリ
②：生物の生息場として標準の環境 石礫底や抽水植物帯など環境が比較的多様である (在来種の出現数5~10種程度、「水質がきれい」に該当する種が出現している。)	五反田川	ドジョウ、アユ	オイカワ、マルタ、ウグイ、モツゴ、ドジョウ、アユ、スミウキゴリ
	渋川	カマツカ、ドジョウ、アユ	オイカワ、マルタ、ウグイ、カマツカ、アユ、メダカ類、スミウキゴリ、ウキゴリ
	二ヶ領用水 (円筒分水 下流)	カマツカ、ドジョウ、メダカ類	ギンブナ、オイカワ、マルタ、モツゴ、カマツカ、ドジョウ、メダカ類、スミウキゴリ
③：生物の生息場として望ましい環境 石礫底や抽水植物帯など環境が多様であり、水質の安定した流入(湧水など)がある (在来種の出現数が10種程度以上、「水質が非常にきれい」に該当する種が出現している)	平瀬川	ホトケドジョウ	オイカワ、マルタ、ウグイ、モツゴ、カマツカ、ドジョウ、アユ、ヌマチチブ、スミウキゴリ
	麻生川	アブラハヤ	ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、アユ、メダカ類
	二ヶ領本川	アブラハヤ	ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、マルタ、ウグイ、モツゴ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、アユ
	二ヶ領用水 (宿河原 線)	アブラハヤ	オイカワ、アブラハヤ、マルタ、ウグイ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、アユ、メダカ類、ヌマチチブ、スミウキゴリ
	三沢川	アブラハヤ、ホトケドジョウ、シマドジョウ属	ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、マルタ、ウグイ、モツゴ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、シマドジョウ種群、ホトケドジョウ、アユ、メダカ類、ヌマチチブ、スミウキゴリ、ウキゴリ
IV：その他 感潮域、汽水域などに位置する	矢上川	ピリンゴ、マハゼ	オイカワ、カマツカ、ドジョウ、アユ、ボラ、マハゼ、ヌマチチブ、スミウキゴリ、ウキゴリ、ピリンゴ

※ 平成19~30年の調査データ等を元に設定しています。

※1 在来種とはもともとその地域に住んでいる生きもののことです。在来魚種の種数が多いほど、多様な魚類が生息できる良い環境と言えます。

※2 人工的な川に該当する有馬川では、在来種の出現が非常に少ないため、指標種の出現が確認できない状況ですが、他の2河川(片平川、真福寺川)の出現状況を勘案し、「ドジョウ、メダカ類」を指標種としました。

(2) その他の生きものでの評価（補助指標）

魚類の調査をすることは、専門家でないとなかなか難しいため、河川環境がある程度良いことの指標となる種（鳥やカニ）をいくつか選びました。これらは、比較的に見分けやすく、見つけやすい種です。調査の際に探してみてください。

表 その他の生きものでの評価

	種類		評価の基準※1
鳥類	サギ類（コサギ、アオサギ、ダイサギ）	魚類・甲殻類等を捕食することから、餌となる生きものが市内の河川に生息している指標となります。	II：普通環境
	カワセミ	魚類・甲殻類を捕食すること、また行動範囲がサギ類より狭いため、確認された場合は周辺に営巣している可能性が高く、市内の河川が良い環境であるという指標となります。	III：良い環境
甲殻類・巻貝	カワニナ	淡水巻貝の代表的な種で、ホタル類の幼虫の餌となります。比較的きれいな水質に生息するため水質の指標となります。	II：普通環境
	モクズガニ	海で生まれて川で育つカニであり、海と川が分断されていないという指標となります。岩などの隠れ場がある場所に生息するため、多様な環境があるという指標にもなります。ただし、水質はそれほどきれいでなくても生息できます。	II：普通環境
	サワガニ	湧水や河川の上流域のきれいな水に生息するため、川が良い環境であるという指標となります。	III：良い環境

6.2. 水質の視点（指標：ふん便性大腸菌群数）

市の川での遊び方として、泳ぐことは勧めていません。ただし、水遊びができる川もあるため、目安としてふん便性大腸菌群数を設定しました。これは、水の中に人間を含む動物のふんがどれくらい混じっているかを表します。水浴場で泳げるかどうかを判断する国の基準の一つです。

一般の方がふん便性大腸菌群数を測ることは難しいため、評価する場合は市の調査結果を参考にしてください。

表 水質（ふん便性大腸菌群数）の評価

視点	項目	項目の評価
水質	ふん便性大腸菌群数	1,000 個 / 100mL より多い （「水浴場水質判定基準」（環境省）で「水浴不可」）
		1,000 個 / 100mL 以下 （「水浴場水質判定基準」（環境省）で「水浴可」）